

国際会議報告

**INTERNATIONAL
MEETINGS**

国際会議報告

交通工学における先進技術の応用に関する 第4回国際会議

FOURTH INTERNATIONAL CONFERENCE ON APPLICATIONS OF ADVANCED TECHNOLOGIES IN TRANSPORTATION ENGINEERING

中川真治

Shinji NAKAGAWA

正会員 修士(工学) 信州大学工学部助手 社会開発工学科 (〒380 長野市若里500)

1. はじめに

1995年6月27日(火)から6月30日(金)まで, Capri (イタリア)の国際会議場 (Palazzo dei Congressi)において交通工学における先進技術の応用に関する第4回国際会議 (Fourth International Conference on Applications of Advanced Technologies in Transportation Engineering, AATT) が開催された。Capri はご存じの方も多と思うが, ナポリ沖に浮かぶ風光明媚な島で, 青の洞窟でも有名なリゾート地である。

この国際会議は, 以下に挙げる5つの組織の主催により開催されたものである。

- A.S.C.E-Urban Transport Division
- F.H.A
- C.N.R.-I.A.S.I. (Consiglio Nazionale delle Ricerche - Istituto di Analisi dei Sistemi ed Informatica)
- C.N.R.-P.F.T.2 (Consiglio Nazionale delle Ricerche - Progetto Finalizzato Trasporti Due)
- E.E.C.DG XIII Transport Telematics Office

会議プログラムによると, AATT 国際会議のテーマは, 情報システム・ロボット工学・テレコミュニケーション・適応制御・新素材といった分野における新しい技術が交通システムの計画・設計・維持・運用の発展に対して, どのように寄与できるのかを検討することである。したがって, 2. で述べるように, コンピュータサイエンス, ロボット工学, オートメーションなどの分野の専門家と交通分野の実務に携わる者や研究者との間で意見交換ができるような形で, 各セッションが構成されている。また, 適宜, 90分程度のチュートリアルも設けられていた。会議内容については, 次の2. で述べる。

会議参加者の数は200名程度と比較的小規模なもので

あった。日本からの出席者は約10名であった。発表者の国籍を見ると, イタリア・アメリカ・フランス・イギリス・ドイツが多く, アジアからの発表者は比較的少なかった。ちなみに, 日本からの発表論文は3件であった。

2. 会議内容

以下に各セッションの題目を示す。括弧内は当該セッションの発表論文の数である。

- Public Transport I (4)
- Public Transport II: Information and Control (5)
- Public Transport III: Scheduling (5)
- Rail Transport (5)
- Air and Sea Transport (5)
- Video Motion Detection (6)
- Multimodal (5)
- Vehicle Detection with Machine Vision (4)
- Traffic Flow Characteristics (5)
- Neural Networks (5)
- Incident Detection (4)
- Traffic Monitoring (5)
- Communications (4)
- Incident Management (4)
- ATIS I (4)
- ATIS II (4)
- Decision Support and KBES I (3)
- Decision Support and KBES II (3)
- VMS (4)
- Simulation I (4)
- Simulation II (4)
- Vehicle Location (4)
- Freeway Control (5)

- Freight Transport (5)
- Integrated Control (3)
- Highway Information and Maintenance Systems (4)
- Environment (4)
- Traffic Management Laboratories (5)
- Automatic Payment (5)
- Evaluation (4)
- Signal Control (6)
- Route Choice (5)
- Adaptive Signal Control (3)
- Traffic Assignment & O/D Estimation (4)
- Control Navigation System I (4)
- Control Navigation System II: MOBLAB Project (6)
- Urban Congestion Control (4)
- Dynamic Assignment (5)

これらのセッションが Parallel Session として、3つの会場に分かれて行われた。1つの研究発表につき20分弱の発表時間が与えられ、7分程度の質問と討議の時間が設けられた。

また、以下の4つの題目それぞれについて1時間半程度の Tutorial Session が行われた。

- Corridor Traffic Analysis Using the Corsim Simulation System I
- Corridor Traffic Analysis Using the Corsim Simulation System II
- Dynamic Traffic Assignment/Management Systems: State-of-the-art review
- Modern Traffic Sensor Technologies for ITS

また、初日には1時間の Opening Session が行われ

た。

このように、各セッションの論文数はさほど多くないが、広範な分野に関する研究成果が一堂に会していることが、この会議の特徴であろう。

研究発表の内容としては、プロジェクトの紹介といった色彩のものが多いという印象を受けた。特に、開発中のシステム概念を示し、その構成機器を紹介するといったスタイルの発表が多いという印象を受けた。この辺は、1.で述べた、この会議のテーマに起因するものであろう。つまり、交通に関わる幅広い分野からの研究成果を受け入れようとするスタンスの表われといえよう。

また、1995年5月1日までに Full Paper (5ページ)の提出を求められたが、会議当日に配布されたのは昨年のうちに提出したアブストラクトであった。Proceedings は後日刊行されるようである。

3. おわりに

冒頭でも述べたように、この国際会議は世界でも有数のリゾート地で行われたため、会議場よりもその周辺にいる人のほうが多いという(?)状況が見受けられた。個人的には初の国際会議出席であったため、大きな緊張感の反面、少々拍子抜けの感があった。

しかし、2.で述べたように、先進技術と交通に関連する広範囲の分野にわたる研究者が一堂に会した会議であり、多くの研究成果やプロジェクト紹介に触れる機会を得たという点で得るものも多い会議であった。

最後に、次回の AATT は、1997年6月末頃に UC Irvine で開催される予定である。

(1995.8.4 受付)